あなたの使った赤本は？

当時の受験生の現在の年齢

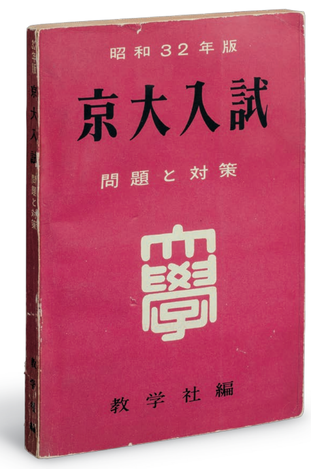
1955年版

80歳

大学入試シリーズ（赤本）創刊！
（創刊号は社内にも残っていないため、現在探しています。）

1957

78歳

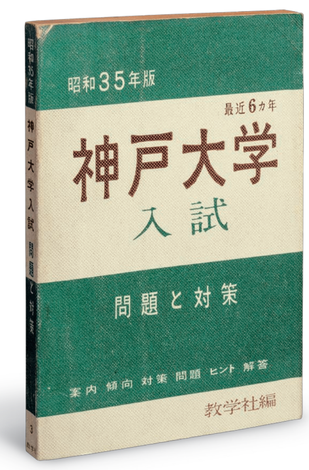


文部省が初の
全国学力調査を実施。

1960

75歳

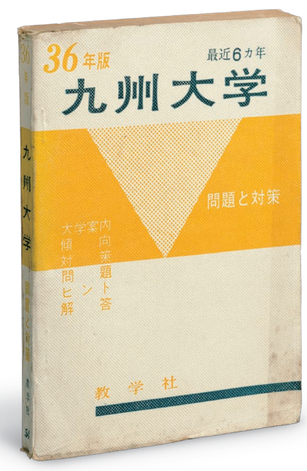
赤くない赤本もあった！



この頃はまだ表紙が赤くなく、
大学ごとに色がさまざま。

1961

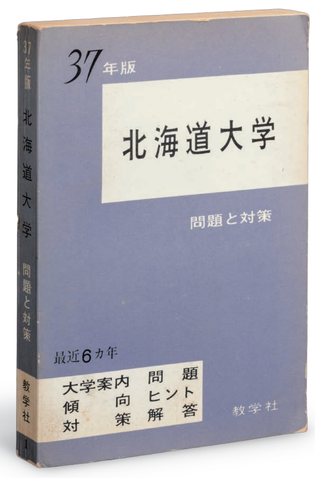
74歳



この年、はじめて東大の
赤本が刊行される。

1962

73歳



中学2・3年生を対象に、
全国一斉学力テストが実施。

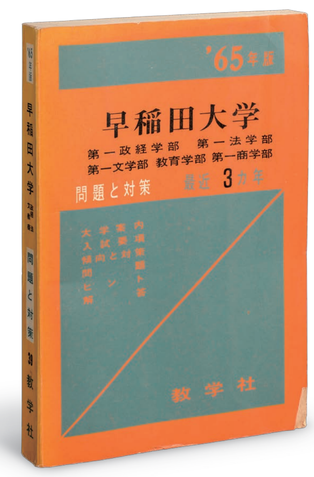
1964

71歳

赤本の刊行ラインナップが
100点を超える。

1965

70歳



東京の有名私立大学が
ラインナップに加わる。

1969

66歳

大学紛争のため
東大入試が中止。

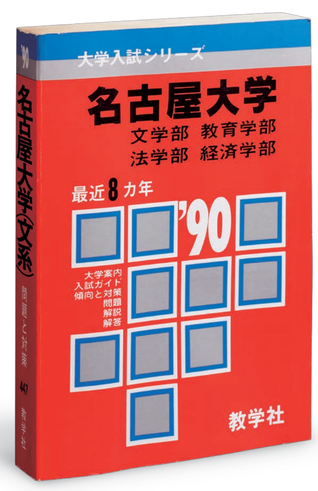
1985

50歳

丙午（ひのえうま、1966年）の
影響で18歳人口が激減。

1990

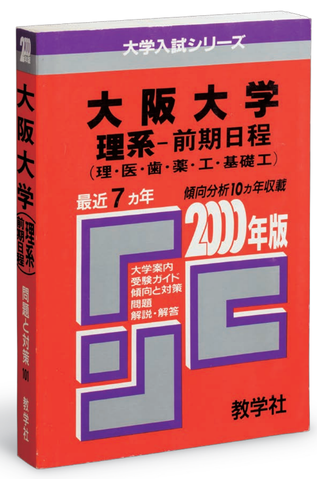
45歳



大学センター試験が始まる。
赤本のラインナップが
500点を超える。

2000

35歳



国立大学でAO入試が
導入される。

2004

31歳

この頃から現在の
赤本サイズになる。

2006

29歳

表紙のデザインも
ほぼ現在と同じに。

2017

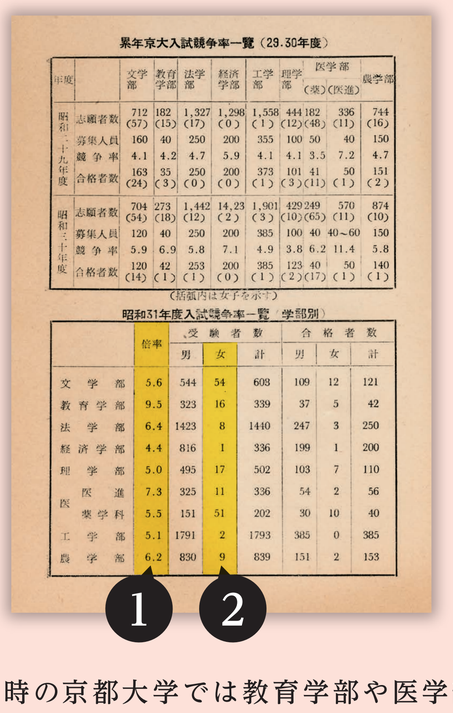
18歳

現在、「赤本シリーズ」は
369大学 593点！

『昭和32年版 京大入試』より

{ 昔の赤本の内容は？ }

【大学情報】



累年京大入試競争率一覧（29.30年度）

年度		文学部	教育学部	法学部	経済学部	工学部	理学部	医学部（医進）	医学部（薬）	農学部
昭和二十九年度	志願者数	712 (57)	182 (15)	1,327 (17)	1,298 (0)	1,558 (1)	444 (12)	182 (48)	336 (11)	744 (16)
	募集人員	160	40	250	200	355	100	50	40	150
	競争率	4.1	4.2	4.7	5.9	4.1	4.1	3.5	7.2	4.7
	合格者数	163 (24)	35 (3)	250 (0)	200 (0)	373 (1)	101 (3)	41 (11)	50 (1)	151 (2)
昭和三十年度	志願者数	704 (34)	273 (18)	1,442 (12)	14.23 (2)	1,901 (3)	429 (10)	249 (65)	570 (11)	874 (10)
	募集人員	120	40	250	200	385	100	40	40～60	150
	競争率	5.9	6.9	5.8	7.1	4.9	3.8	6.2	11.4	5.8
	合格者数	120 (14)	42 (1)	253 (1)	200 (0)	385 (1)	123 (2)	40 (17)	50 (1)	140 (1)

（括弧内は女子を示す）

昭和31年度入試競争率一覧（学部別）

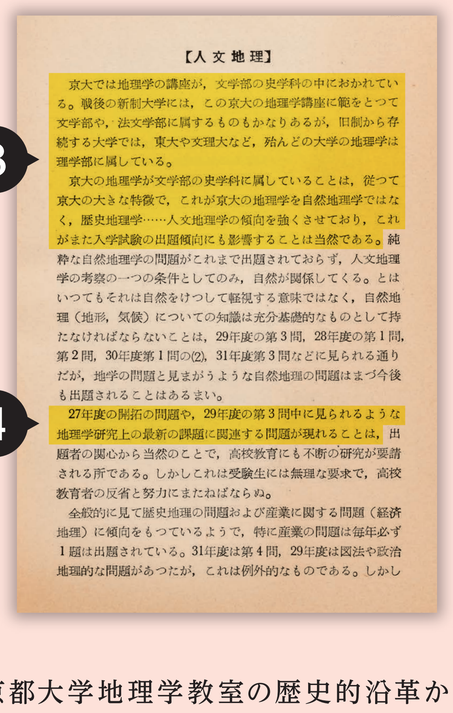
	倍率	受験者数 男	受験者数 女	受験者数 計	合格者数 男	合格者数 女	合格者数 計
文学部	5.6	544	54	608	109	12	121
教育学部	9.5	323	16	339	37	5	42
法学部	6.4	1423	8	1440	247	3	250
経済学部	4.4	816	1	336	199	1	200
理学部	5.0	495	17	502	103	7	110
医学部 医進	7.3	325	11	336	54	2	56
医学部 薬学科	5.5	151	51	202	30	10	40
工学部	5.1	1791	2	1793	385	0	385
農学部	6.2	830	9	839	151	2	153

1 2

1 当時の京都大学では教育学部や医学部（医学科進学課程）が人気。

2 このころはまだ女子の受験者はわずかだった。

【傾向と対策】



【人文地理】

京大では地理学の講座が，文学部の史学科の中におかれている。戦後の新制大学には，この京大の地理学講座に範をとつて文学部や，法文学部に属するものもかなりあるが，旧制から存続する大学では，東大や文理大など，殆んどの大学の地理学は理学部に属している。

京大の地理学が文学部の史学科に属していることは，従つて京大の大きな特徴で，これが京大の地理学を自然地理学ではなく，歴史地理学……人文地理学の傾向を強くさせており，これがまた入学試験の出題傾向にも影響することは当然である。純粋な自然地理学の問題がこれまで出題されておらず，人文地理学の考察の一つの条件としてのみ，自然が関係してくる。とはいつてもそれは自然をけつして軽視する意味ではなく，自然地理（地形，気候）についての知識は充分基礎的なものとして持たなければならないことは，29年度の第3問，28年度の第1問，第2問，30年度第1問の(2)，31年度第3問などに見られる通りだが，地学の問題と見まがうような自然地理の問題はまず今後も出題されることはあるまい。

27年度の開拓の問題や，29年度の第3問中に見られるような地理学研究上の最新の課題に関連する問題が現れることは，出題者の関心から当然のことで，高校教育にも不断の研究が要請される所である。しかしこれは受験生には無理な要求で，高校教育者の反省と努力にまたねばならぬ。

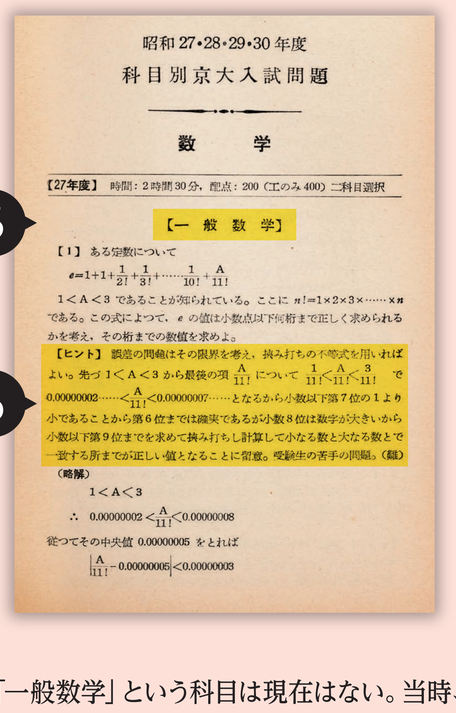
全般的に見て歴史地理の問題および産業に関する問題（経済地理）に傾向をもつているようで，特に産業の問題は毎年必ず1題は出題されている。31年度は第4問，29年度は図法や政治地理的な問題があつたが，これは例外的なものである。しかし

3 4

3 京都大学地理学教室の歴史的沿革から出題傾向を示した、興味深い分析。

4 時事的な最新の課題に関連した出題は、現在も対策必須の重要ポイント。

【問題編】



昭和27・28・29・30年度
科目別京大入試問題

数　学

【27年度】 時間：2時間30分，配点：200（工のみ400）二科目選択

【一般数学】

【1】 ある定数について

$e=1+1+\frac{1}{2!}+\frac{1}{3!}+\cdots\cdots+\frac{1}{10!}+\frac{A}{11!}$

$1<A<3$ であることが知られている。ここに $n!=1\times2\times3\times\cdots\cdots\times n$ である。この式によつて，e の値は小数点以下何桁まで正しく求められるかを考え，その桁までの数値を求めよ。

【ヒント】 誤差の問題はその限界を考え，挟み打ちの不等式を用いればよい。先づ $1<A<3$ から最後の項 $\frac{A}{11!}$ について $\frac{1}{11!}<\frac{A}{11!}<\frac{3}{11!}$ で $0.00000002\cdots\cdots<\frac{A}{11!}<0.00000007\cdots\cdots$ となるから小数以下第7位の1より小であることから第6位までは確実であるが小数8位は数字が大きいから小数以下第9位までを求めて挟み打ちし計算して小なる数と大なる数とで一致する所までが正しい値となることに留意。受験生の苦手の問題。（藤）

〔略解〕

$1<A<3$

$\therefore\ 0.00000002<\frac{A}{11!}<0.00000008$

従つてその中央値 0.00000005 をとれば

$\left|\frac{A}{11!}-0.00000005\right|<0.00000003$

5 6

5 「一般数学」という科目は現在はない。当時、高校数学は「一般数学」「解析Ⅰ」「解析Ⅱ」「幾何」の4科目からなり、「一般数学」は日常生活に関連した数学の一般教養的な側面を扱っていた。

6 今の赤本にはない「ヒント」が見られる。当時は、「ヒント」が解説のような役割も果たしていた。

教学社